新春にあたり

明けましておめでとうございます。

私も社長という大役を受け、はや一年がたちました。今年一年振り返ると、コロナウイルスに始まり、コロナウイルスに終わった年でした。

ちょうど一年前、ビルメンテナンス業界の新年会で、「武漢で高熱が出る病気がはやっており、海外から帰って来たら、成田空港で熱を測っていて異様だった。」と話を聞き、その時はそうなんだと何の気なしに聞き流していました。

その後、日本においても、患者が発生して、クルーズ船や全国各地にあっという間に広がってしまいました。そして飲食店営業時間の制限により、お客様であるホテル、レストラン関係の仕事が縮小して当社の売上にも影響してまいりました。

さらに、緊急事態宣言があり、全国の移動が制限され、休業するホテルが多発し、ホテルの売り上げが大幅に減少しました。そこで、勤務している社員の仕事の確保、異動の手配、休業する社員の選定、休業補償の支払いなどを決めました。

また、社員が濃厚接触者になって、PCR検査を受けたらどう対応するのか、社員に陽性者が出た場合の対処フローを作成するなど、やることはすべて初めてのことばかり、前例がありません。

そして当社は**エッセンシャルワーク（人々の生活維持に欠くことのできない仕事）**を行っております。休業やリモートワークができない仕事です。その為、緊急事態宣言下でも、リスクを負って全社員に出社していただきました。さらに当社では、新潟県のコロナウイルス指定病院の6病院中4病院を担当してます。勤務いただいている社員の皆さんには、不安の中、使命感を持って勤務していただきました事、病院を支えていただいた事、そしてその**社員を送り出していただいた家族の皆様に深く感謝いたします。**

さて、非常事態宣言下において私が考えてたことは「新潟県にしか営業拠点が無くて良かったな」ということです。

非常事態宣言中は他県との往来の自粛や都市封鎖（ロックダウン）などもささやかれていました。そこで、当社が県外で活動していれば、業務確認のために新潟の本社から人が行かなければなりません。また、コロナウイルスに現場の方が感染してしまえば、新潟から応援を出さなければならなくなります。そんな時、県をまたぐ移動を規制されていれば、応援も出せず、現地にいる社員の負担はどれほどのものかと想像いたします。

代表取締役社長

鈴木謙太



当社は、社名に新潟と付いている以上、新潟県全域で活動する企業であり、かつふるさと新潟に貢献できる企業でなければならないと考えております。

たとえば当社管理のビルは清掃が行き届いており、ゴミ庫も毎日きれいに掃除されています。また、給排水設備も点検、清掃されており、ネズミやゴキブリも生存を確認できない状況です。さらに、警備員が巡回して、外周に段ボールなどの可燃物が置いていないビルです。しかし、隣のビルがそうでない状況だとしましょう。ネズミやゴキブリが侵入してきますし、出火があれば延焼してしまうかもしれません。

ですから私たちの一つ一つの仕事が、**ビル管理を通じて新潟の衛生、安全の向上に繋がる**のです。

爽159号にも書きましたが、高度経済成長以前では、お客様は清掃や設備運転でも自社でやるという時代でした。その後仕事が高度化、専門化する中、本業ではないことは外注に出し本業に専念できる環境を整えていきたいというニーズが出てきました。そういう理由で、当社に業務を発注していただいたお客様が多くいらっしゃいます。

私たちはお客様の業務代行を通じて、**行政や企業の屋台骨を支え、新潟の発展に貢献していきたい**と考えております。そして、その仕事は多くの人を雇用することにより、できていると思います。その為、最も良く新潟に貢献できることは、事業をより多く行い、その事業を通じて**雇用を生み出し**、新潟というステージで活躍できる人材を広げ、失業者を減らし、就業者を増やすことだと確信しています。

今回、毎年全社員に配布してます、社員手帳2、3ページに新潟ビルサービスの志（こころざし）を載せました。

今まで当社の会社理念として使用してきました社是は、江戸時代に四代目間瀬屋佐右衛門が遺書として、子孫及び間瀬屋で働くすべての人々が守るべきこととして、倹約、精勤、慈悲、共遜を努力し、奢侈（ぜいたく）怠惰（怠ける）残忍（むごい）闘争（あらそい）をやってはいけないといっています。これは、私たちが人間として、守るべきことです。

しかしこの社是は江戸時代の言葉で少し難しいですし、新潟ビルサービスの理念や行動基準ではないので、今回新たに私が新潟ビルサービスに対する考えや気持ちを込めて作成しました。

三部構成になっており、どうしてそういう思いになったのかは、それぞれの爽に書いてありますので、そちらをご覧ください。

まずはお客様へ、これは爽156号。

そして社員へ、これは爽183号。

最後に新潟へ、これは今回の爽です。

今後、この社是を当社社員の価値基準とし、志を仕事に対する判断基準として、仕事で判断に悩んだときに社員手帳の志を見ていただきたいと思います。